

足利風 -ashikaga-fu

2021
4月号
Vol.73



水彩画：川島直人

足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00~19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- * 特集！
「布施と希望」
- * TOPICS
「自然への畏敬を忘れるな！」
- * 私のボランティアことはじめ
「コロナが顕在化させたこと」
- * サークル紹介
「NPO 法人アニメーション」
- * INFORMATION

＊特集！＊

「布施と希望」

ボランティア精神の根源にあるものは“布施”である。“布施”とは、貪（むさぼ）らないことである。貪らないとは、世の中に“へつらわない”ことである。ボランティアは、自分の持っている力をおしげもなく与え、相手から何も欲しがらない。道を教えるのも、高齢者の重い荷を持ってやるのも、自分の力を持ち出して使う“布施”である。

コロナ禍のいま、20年も前に遺伝学者・柳澤桂子さんが、免疫学の多田富雄さんとの往復書簡の中で語っていた言葉を思い出す～ウイルスも怖いですが、いつ何時、とんでもないウイルスが増えるかも知れない。それがすぐ世界中に広まってしまう・・・考えると怖いことばかりです。特にこの頃、地球全体の人々の心がすさんでいるようで悲しいです。今こそ皆で平安を祈る歌を歌えばいいのではないのでしょうか。世界中同じ歌を・・・。



多田富雄さんも、インドの多様性や混沌の中で観たものを語っている～インドという国には幾重にも積み重ねられた複雑な多様性がある。生者と死者が同居し、聖と俗が交わる町。五千年の歴史が育んだインドの多様性のファイルには、いまの物質化した人間には想像もつかない不思議な希望が隠されている。貧困や差別など、インドの闇は深い。生易しい希望を捨てよ。それほど奥深い闇が広がっている。しかし、すぐさま解決できないからこそ、そのために身を捨ててまで働いている人がいるのだ。ガンジーだって、マザー・テレサだってそうだった。絶望的だからこそ希望が芽生えるのだ・・・。

四国の坂村真民さんの詩～みんな 寒い寒いと 言っているが 何だか ぽかぽかしてくるね どうして こんなに 俺たちだけが ぽかぽか してくるのかね 待っているからだよ 希望があるからだよ そうだね まったくそうだね～「たんぽぽのうた」。

＊ TOPICS ＊

「自然への畏敬を忘れるな！」

寺田寅彦「天災と日本人」の“まちの縁側”が1月15日足利市民活動センターで開かれた。文明が進むにつれて人間は、自然を克服する野心を起こした。自然に勝利したと錯覚する中で新たな自然災害が発生。そのたびに対策をし、また・・・忘れてゆく。西洋人の衣食住を模し、西洋人の思想を継承することで、日本全体の風土を自由に支配することなど不可能である！と、寺田寅彦は言っている。このことは、わたしたちも阪神淡路大震災や東日本大震災の経験からだけでも身に沁みてわかっているはずだ。いまさらながら寺田寅彦の時代を超えた慧眼に脱帽！

私のボランティアことはじめ

「コロナが顕在化させたこと」

立教大学 高井 正

新型コロナウイルス感染が拡大する中で、2020年から生活に困窮する人や自殺する人が増えています。特に影響を受けているのが女性たちです。昨年の緊急事態宣言の後、コロナに打撃を受けた飲食業など、仕事を失った女性は約70万人(男性の約2倍)に上りました(※)。スーパーやコンビニ、介護事業所などでは、感染症対策の強化に向けて負担が増加しています。自殺については、警察庁によると男女ともに増加傾向ですが、女性の急増が顕著で、昨年10月の851人は前年同月比で約8割増に達したとのこと。



さらに政府からの「在宅ワーク7割」との要請による自宅で過ごす時間の増加が、女性のシャドーワーク(家事・育児・介護等)の増加につながっていると指摘されています。昨年3月の一斉休校や保育所休業の際、通常の子育てに加え、子どもの自宅学習など、在宅ワークをしようにも、その時間の確保が困難で、家族が寝てからワークという状況が報道されていたことを記憶しているのではないのでしょうか。

「コロナ離婚」という言葉があります。ですがコロナが原因というより、在宅ワークの増加や外出自粛などにより、もともとあった夫婦間の問題が顕在化したのではと考えられています。共働き家庭においては、「ワンオペ育児」に加え、朝昼夜の食事作りなども女性の負担増となったとのネット上の書き込みも少なくありません。

話は変わりますが、2020年度の授業をオンラインで実施しました。社会教育関係の授業を担当しており、「社会教育」は「三密」で行われてきましたので、授業も討議やグループワークを多用しています。試行錯誤の授業でしたが、オンライン環境でもかなりのグループワークができると感じました。しかし、対面の授業であれば普通にできる「雑談」はできません。

コロナは私に、「雑談」が持つコミュニケーションにおける大切さを気づかせてくれました。

(※)内閣府 2020年11月19日 コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会「緊急提言」

サークル紹介

★NPO法人アニマシオン 「富田学童クラブ」・「葉鹿学童クラブ」

放課後や長期休暇中は、子どもたちの自主性・社会性を育むうえで重要な時間です。異年齢集団の子どもたちどうしの学び合いは、学校や家庭では体験できないことがたくさんあります。主役である子どもたちのより豊かな成長と発達を目指して、イキイキ・ワクワク・ハラハラ・ドキドキする生活を支援していきます。



* INFORMATION *

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和3年4月16日（金） 14：00～16：00

* 本：「ぶどう畑の笑顔」（川田 昇）

*案内人：石川 博右さん

★令和3年5月 8日（土） 13：00～15：00

* 本：絵本「つながってる！」～いのちのまつり～

*案内人：中島 由貴子さん

■参加費：無料

■会 場/問い合わせ：足利市民活動センター☎44-7311

☆茶論

★令和3年4月24日（土） 13：00～15：00

*担当者：日下部 悲天さん・鈴木 光尚さん

*テーマ：「漂泊の系譜」～西行、そして山頭火～

現代を生きる我々は、心のどこかで、漂泊の人生に憧れている。投げ出すことのできない日々を背負い、世間という海で絶えず溺れそうになっているからこそ、心のどこかでそれらを捨て去り、我が身一つを大空にさらし歩いてゆく生き様に憧れている。彼らは、世間という鎖を旅の空ではずした時に、何を観たのか？ そして、何を残して行ったのか？ ご期待ください。

■参加費：無料

■会 場/問い合わせ：足利市民活動センター☎44-7311

☆企画展(交流コーナー)

* 4月 5日（月）～4月15日（木） 木彫り仏像・地蔵 展

* 4月20日（火）～4月28日（水） 創作人形 展

* 5月 6日（木）～5月20日（木） 足利の山の四季 写真展

* 5月24日（月）～6月 3日（木） 泥仏と絵・本・書 展

※展示時間・・・10：00～19：00 ただし最終日は15：00まで

（土・日・祝日・5/17は休館日）

☆相談室&講座

*相談室 = 毎月第2・第4水曜 14：00～16：00

*講 座 = 毎月1回

※詳しくは、別紙参照

編集後記

人類が新型コロナウイルスと闘っているように、バナナも「新パナマ病」に侵され、「将来食卓からバナナが消える？」なんてニュースを目にしました。当たり前のように有ったもの・当たり前のようにできたこと、それらが当たり前ではないことに気付かされます。
(しおぱん)